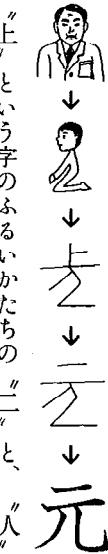


元

二年 筆順 一 二 ニ デ 元
画数 4
元首 オン ゲン・ガン
元老 ウン もど

成り立ち



「上」いう字のふるいかたちの「二」と、「人」のかたちをあらわした「儿」とを組み合わせてつくった字です。「人のからだの一ばん「上」にあるもの」というみの字で、「あたま」のことをあらわした字です。

「元首」「元老」などはこのいみです。

「元日」は「一年の「あたま」の日」ということで、「一ばんはじめ」といういみにもなります。

「あたま」は人はたらきの「元」ですから、「もと」というつかいかたも生まれました。

「上」の古い字には「士」「士」などもある。ゲンは漢音、ガンは吳音である。」

言

三年 筆順 二 三 言
画数 7
オノ ゲン・ゴン
クン こと・い

成り立ち



口から声がなみのように出でくるありさまをあらわしてて、『ことば』といいういみや『いう』といいういみをあらわしています。

ことばは、むかしはたんに『こと』といいました。また『ことは』といい、『言の葉』と書きました。今は『ことば』といい、『言葉』と書きます。

「古い字形は、辛と口とより成つていて、辛と口との形声字と考えられる。つまり、辛は心を意味し、「心が口を通して出てくる」ことを表したものと考えられる。言葉は「心を表現する道具」であることをよく表した字だと思う。」

使い方

△今年も元日から「いつも明るく『元気』に」というとばをあたまにわすれないでせいかつしていこうとおもいます。

熟語例

△元日（「あたまの日」ということで、一年のあたまの日の「一月一日」のことをいいます。）

△元氣（「すべてのこういの元になる氣力」といういみのことばで、「つよい氣力」のことをいいます。『やる気』のことです。）

△元首（元も首も「あたま」。國のあたまともいうべき、國王や大統領のことをいいます。國をだいひょうする人）

△元素（元も素も「もと」。すべてのものの「もと」になるもの。酸素、水素、炭素などがあります。）

△元年（年号があらたまつた一ばんはじめの年。だい一年のこと。）

△元祖（ものごとをはじめた人。しようひんをはじめてうり出したいえのことによくつかわれます。）

△根元（根は「ねもと」。大もと。『根本』とおなじ）

使い方

△口でいくらよいことを言つても、行いがともなわなければ、なんにもなりません。言行一致がたいせつです。

△日本ほどの大きい国で、方言のちがいはあっても、一言語の国というのは、せかいでもめずらしいことです。

熟語例

△言行（言葉と行い。「言行一致」は、言葉と行いにくいちがいがなくて一つであること。）

△方言（その地方だけにつかわれている言葉。④）

△標準語（「標準語」、「共通語」。④東北弁。九州弁）

△言語（「言葉」のこと。また、文字をもふくめていうことがあります。④視覚言語。むかしは、漢音でゲンギヨ、吳音でゴンゴ、というように統一して読みます。し

たが、今は言を漢音で、語を吳音で読んでいます。しかし、「言語道断」というように読むならわしのある言葉もあります。）

△失言（まちがつたこと、または言つてはいけないことを行うつかりと言うこと。また、うつかりして言つた言葉）